

第3回タウンミーティングin酒田ーみんなで考える、まちなかの未来 開催報告

【共通する視点】

- ・旧清水屋の活用が全体を通しての共通テーマ
- ・中町エリアの歴史的資源を活かすことへの関心が強い
- ・市民・民間主体のまちづくりと、行政の役割分担を意識した提案が多い
- ・観光だけでなく、市民の日常・居場所・交流の視点が組み込まれている



▲5グループに分かれて白地図を見ながら意見交換

○第3回タウンミーティングin酒田 概要

日時／8月31日（日）14：00～16：00

場所／いろは蔵パーク内「無印良品 まちの保健室」

参加者／事前募集20名+当日参加10名

パネリスト／

菅原 脩太 さん【空き家／こ家プロジェクト理事長】

齋藤 知明 さん【酒田コミュニティ財団会長／サンロク】

藤田 篤子 さん【本市への移住者】

佐藤 圭 さん【大学生／東北公益文科大学】

齋藤 徹平 さん【(株)良品計画／無印良品酒田 店長】

古谷 信人 さん【(株)良品計画／ソーシャルグッド事業部】

ファシリテーター／栗本拓幸【(株)Liquitous CEO】

キーワード

旧清水屋活用 / 多機能空間 / ゲストハウス /
中町の歴史 / おしん / 山居倉庫 / 日和山 /
体験型観光 / 匠ののれん街 / 市民ガイドカ
子育て世代の居場所 / 若者の滞在 / 歩きたくなるまち
民間主導 / 行政のサポート / 空き店舗活用 /
“よくきたねー”のまちづくり

【各グループから頂いたご意見の概要】

① 旧清水屋の多機能化と市民・観光の交差点に

こども・おかさん達が遊んで休める場所

多様な店舗が集まる複合空間としての利活用
温泉風の施設・美術館・体験型観光拠点などの案も
市民がどう関わるか＝市民参加による空間づくり

② 中町・庄内の歴史と文化の活用

山居倉庫・日和山・「おしん」などの歴史資源を体験型で再構築
文学作品（ねじめ正一「風の棲む町」）を活かしたまちの物語化
「よくきたねー」という言葉に象徴されるあたたかさ・市民性を観光資源に昇華

③ 若者・学生も関わる「滞在できるまちなか」

学生が仲間と滞在できるゲストハウスの整備

中町に歩きたくなる仕掛け（回遊性）

駐車場整備やるんるんバスの路線変更と拠点化

④ 市民主体による観光対応力の向上と創造的空間の再生

市民の「観光客への対応力」＝ホスピタリティの醸成
「匠ののれん街」や「中町美術館」など、文化・手仕事を軸にした体験型施設
中町で「来てよかった」と言われるための**“温かさ”の演出**

⑤ 中通商店街の再起動と多業種誘致

商店街のシャッターを開けることから始める
商業に限らず、多様な業種・活動主体の誘致
「酒田市がなんとかしてくれる」は終わり → 民間主導で行政はサポート役へ

第4回タウンミーティングin酒田ーみんなで考える、まちなかの未来 開催報告

○第4回タウンミーティングin酒田 概要

日時／11月29日（土）14：00～16：00

場所／いろは蔵パーク内「無印良品 まちの保健室」

参加者／高校生、大学生 約30名

形式／インプット、グループワーク、アイデアソン形式での発表

参加者は5グループ（A～E）に分かれ、

「中町にどんな未来があれば、日常的に人が集まるか」

をテーマに議論。

実現性よりも“妄想力”を重視してアイデアを出し合った。

グループ発表の概要（A～E）

【A】酒田食べ歩きロード→ 回遊性とにぎわい創出を重視

- 中町を「年中お祭りのように楽しめる場所」へ
- 約60店舗規模の食べ歩きエリア構想
- ゴミ箱設置、キャッシュレス対応、ポイント活用など運営もセットで検討

【B】中町セントラルパーク→ 滞在と安心感を重視

- 旧清水屋跡地などを活用し、緑と公園機能を導入
- 市民がリラックスできる“まちなかの余白”

【C】若者の日常の居場所→ 日常性と若者視点を重視

- 高校生・大学生が「理由なく来られる」場所の必要性
- 無料・低コストで長く過ごせる公共的空間

【D】温泉パーク×学生の秘密基地→ まず動かす・混乱を起こす発想

- 空き店舗を学生に開放し、実験的に使う
- 温泉・サウナを核に長時間滞在できる施設

【E】フードタウン in 中町→ 安さ・気軽さ・居心地を重視

- フードコート+多目的フリースペース
- 買わなくても使える／持ち込みOK
- 世代を時間帯で住み分け

【全グループに共通する論点】

A～Eすべての発表から、次の点が共通して浮かび上がった。

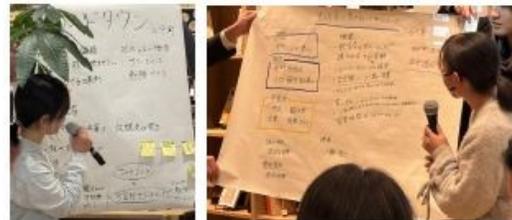
1. 若者が日常的に使える居場所が不足している
2. 消費しなくても滞在できる空間が必要
3. 完成度よりも、まず何かを始めることが重要
4. 交通・アクセスはすべての前提条件
5. 世代は分けず、時間帯で自然に住み分けるという発想

発表後、コミュニティ財団の皆さまからもコメント・提案があった。

- 夜のまちづくりの可能性
- お金が回る仕組みとしての「夜」
- 若者が集まり、オープンに語り合える場所の価値
- 温泉や夜の居場所が持つ包摂力

これらは、各グループの提案とも重なり、「中町を“使われ続ける場所”にする」という方向性を後押しする意見となった。

今回のタウンミーティングでは、「市民一人ひとりの視点」「若者のリアルな感覚」「実験的でもまず始めるという姿勢」が可視化された
中町のまちづくりは、「正解を決めること」ではなく、みんなで関わり続けるプロセスそのものであることが確認された



▲グループごとにアイデア発表



▲グラフィックレコーディングで可視化

第5回タウンミーティングin酒田ーみんなで考える、まちなかの未来 開催報告

○第5回タウンミーティングin酒田 概要

日時／2月14日（土）14：00～16：00 場所／いろは蔵パーク内「無印良品 まちの保健室」

参加者／市民 約12名 形式／インプット、グループワーク、アイデアソン形式での発表

これまでのタウンミーティングやアンケートで蓄積された議論を踏まえ、次年度立ち上げ予定の「まちなかエリアプラットフォーム（仮称）」に向けて、“意見を出す”段階から“自ら担う”視点へと進むことを目的に開催した。参加者は3グループに分かれ、主体的な立場で議論を行った。

ワークショップで出た主な意見

①商人のまちの再編集

- ・36人衆の歴史を活かす
- ・空き店舗のリノベーション
- ・商人文化の再生

②情報発信の強化

- ・店舗情報の集約
- ・子育てマップ
- ・小商いの発信

③暮らしの場としての中町

- ・シェアハウス等の居住機能
- ・空き家再生
- ・若者・学生が関われる仕組み

④歩きたくなる都市空間

- ・本町通りのあり方
- ・回遊性の向上
- ・人中心の空間づくり

共有された方向性

議論を通じて、以下の認識が共有された。

- ・「人」を中心に据えたまちづくり
- ・世代を超えて集える場の必要性
- ・商人文化という原点の再評価
- ・規制に縛られすぎない柔軟な仕組み
- ・関わりしろ（のりしろ）を残す設計思想

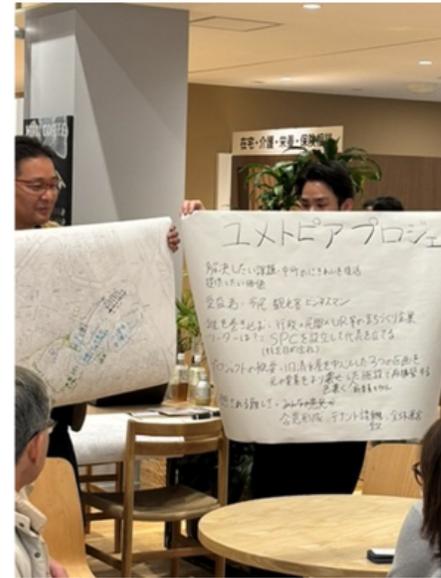
「**まちの未来を自分事として捉える**」という姿勢が示された。

今後に向けて

出されたアイデアを実装につなげるためには、継続的な議論と実行主体の形成が不可欠である。

その受け皿として、

「まちなかエリアプラットフォーム（仮称）」の立ち上げを進める。



▲グループごとにアイデア発表

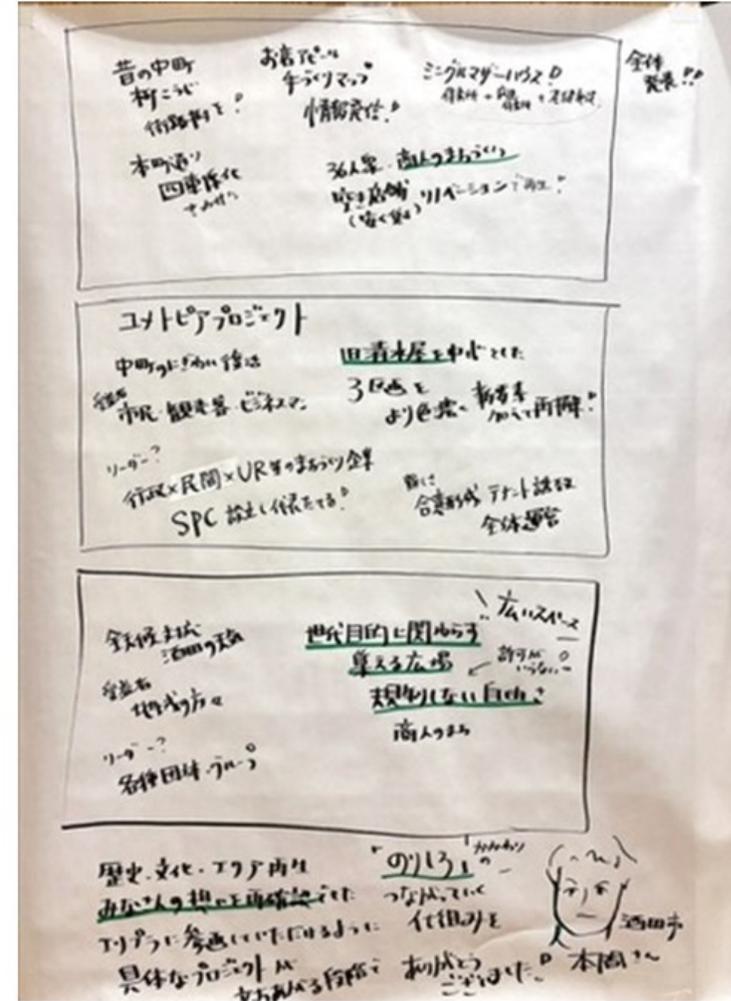
ユメトピアプロジェクト構想
旧清水屋を中心とした再編
・3区画をより多様な要素で再構成
・行政×民間×UR等による推進
・SPC設立検討
・合意形成プロセス重視

▲中1の参加者からは、より具体的な構想の提案があった

本タウンミーティングは、構想を共有する段階から、まちの未来を担う主体を育てる段階へと進んだ一歩である。

今後対話を重ねながら、実装に向けた具体的な取組を積み上げていく。

タウンミーティングin酒田 グラフィックレコーディング内容



グラフィックレコーディングは、対話の内容をリアルタイムで図やキーワードを使って可視化する手法です。話し合いの流れや意見のつながりを分かりやすく整理し、参加者全員が共通認識を持ちやすくなります。